

がん対策アンケート結果報告（市民向け） コメントのみ抜粋

1. 回答者の属性

2. がんに対する認識

(1) がんへの恐れ

◎がんについて、約 9 割が「怖い」と回答。

(2) がんが怖い理由 *がんが怖い人限定

◎「治っても再発・転移の可能性があるから」「抗がん剤の副作用や痛みなどの苦痛があるから」「死亡する可能性が高いから」が特に多く 7 割以上が挙げた。「家族に大きな負担をかけることになるから」「治療費が高額になるから」が次ぎ、約 6 割が挙げている。

(3) がんについて知っていたこと

◎全体では「がんは検診などにより早期に発見することが可能である」「喫煙は様々ながんの原因となる」「初期のがんは自覚症状があらわれないことが多い」が 8 割超、「受動喫煙も様々ながんの原因となる」「ピロリ菌の感染は胃がんの原因となる」は 6 割超の人が認知していた。

◎一方で「肥満は、特に閉経後の女性にとって乳がんの原因となる」「がんは早期に発見・治療した場合、約 9 割が治る」「過度の飲酒は様々ながんの原因となる」については、低い認知にとどまっている。

◎年代別に見ると、特に若年層で「初期のがんは自覚症状があらわれないことが多い」が比較的低くなっている。

◎「ピロリ菌の感染は胃がんの原因となる」については、特に若年層の認知度が低い。

◎「受動喫煙も様々ながんの原因となる」については、若年層ほど認知が高く浸透していることが分かる。

◎自身・親しい人の罹病経験別に見ると、ほとんどの項目について、罹病者が身近にいない人ほど認知度が低くなっている。

3. がんの予防、早期発見・治療

(1) がんの予防、早期発見・治療につながると知っていたこと

◎全体では「適切な体重を維持すること」「がんの原因となる感染症の検査・予防・治療をすること」「野菜や果物を多めにすること」「塩辛い食品をなるべく控えること」の割合が比較的低い。

◎自身・親しい人の罹病経験別に見ると、ここでもほとんどの項目について、罹病者が身近にいない人ほど認知度が低くなっている。

(2) がんの予防、早期発見・治療のために行っていること

◎全体では「喫煙をしないこと」が最も多く約 7 割が挙げた。

◎性・年代別では、概ね若年層ほど「定期的ながん検診を受けること」の率が低くなっている。ただ、40～50 歳代の女性で高くなっていることは注目される。

◎がん罹病経験別に見ると、すべての項目について、罹病者が身近にいない人ほど実施している率が低くなっている。

(3) がんの予防、早期発見・治療のために今後（も）取り組みたいこと

- ◎全体では「バランスのとれた食生活を送ること」「定期的ながん検診を受けること」「喫煙をしないこと」が特に多く 6 割を超えている。
- ◎性・年代別では、特に男性で若いほど「定期的ながん検診を受けること」の回答率が低く、40 歳代では 5 割以下であった。
- ◎がん罹病経験別に見ると、やはり、すべての項目について、罹病者が身近にいない人ほど実施意向が低くなっている。

4. 禁煙

(1) 喫煙習慣の有無

- ◎全体では喫煙率は 2 割以下であった。
- ◎性・年代別に見ると、男女とも若年層ほど「喫煙したことがない」率が高い。

(2) たばこをやめる動機付けになると思うこと

- ◎「自分の意志」が突出して高い結果となった。
- ◎「家族や友人の協力」「禁煙外来受診の医療費助成」「医師や看護師、保健師などの継続的な指導や支え」が次いで回答者が多かった。

(3) 最もたばこをやめる動機付けになると思うこと * 「自分の意思」以外

- ◎「家族や友人の協力」が最も多く挙げられた。「医師や看護師、保健師などの継続的な指導や支え」「禁煙外来受診の医療費助成」が次ぐ。
- ◎性・年代別に見ると、男性・40 歳代で「禁煙外来受診の医療費助成」、男性・70～74 歳で「禁煙方法がわかるパンフレットや手引き」、男性・40 歳代と女性・20～30 歳代で「一緒に禁煙する仲間」が比較的高くなっている。

5. 健康診断・がん検診

(1) 最近、健康診断を受けたか

- ◎全体では回答者の約 7 割は「1 年以内に受診した」と回答。
- ◎性・年代別に見ると、男性では年代が高くなるほど受診率が低くなっている。
- ◎女性では特に 40～50 歳代の受診率が高くなっている。

(2) 受診した健康診断の種類

- ◎全体では「職場で実施する定期健康診断」が約半数であった。「職場で実施する人間ドック」と合わせて、職場による健康診断が約 6 割を占めている。
- ◎性・年代別に見ると、男性・40～50 歳代では、職場による検診が約 9 割を占めている。
- ◎女性においても、職場による検診の率は 20～30 歳代では約 8 割、40～50 歳代では 6 割超であった。
- ◎職業別では、経営者・役員と、被雇用者として働いている人については、いずれも「職場で実施する定期健康診断」が最も高くなっている。

(3) 各がん検診・検査の受診状況

- ◎全体では「2 年以内に受診した」割合が 5 割を超えたのは「肺がん」と「子宮頸がん」検診のみであった。

(4) 各がん検診を受診した理由・きっかけ

- ◎回答者全体では、大腸がん、胃がん、肺がん検診については、いずれも「定期健診の検査項目に入っていたから」が最も多く 5 割を超えている。「毎年受けているから・受けていたから」が次ぐ。
- ◎ピロリ菌については「医師に勧められたから」「健康面で不安があったから・自覚症状があったから」が多く挙げられた。
- ◎子宮頸がんについては「市から無料クーポンが送られてきたから」が最も多く挙げられている。
- ◎乳がんについては「毎年受けているから・受けていたから」が最も多く「定期健診のオプションとしてあったから」「年齢的に必要と思ったから」が次ぐ。

(5) 各がん検診を受診しなかった理由

- ◎回答者全体では、大腸がん、胃がん、ピロリ菌、肺がん、子宮頸がんについては「定期健診の検査項目に入っていなかったから」が最も多く、乳がんでも 2 番めに多く挙げられた。
- ◎全てのがん検診について「検診に費用がかかるから」が 1~3 番めに多く挙げられている。

(6) 各がん検診無料クーポン券の認知・利用度

- ◎いずれのクーポン券についても、認知度は 5 割を超えているが、大腸がん検診無料クーポン券については、他よりも大幅に低くなっている。

(7) 各がん検診の受診意向

- ◎全体では「全額自己負担でも受診したい・受診している」が 2 割弱だったが「費用助成があれば受診したい」と合わせて、いくらかでも自己負担があっても良いと考えている人が 5 割を超えた。
- ◎性・年代別に見ると、男女とも概ね、年代が上がるほど、自己負担があっても受診したいと考えている人が増える傾向が見られる。
- ◎ただ、年代が上がるほど「あまり受診したくない」率が上がる傾向にある。

6. ピロリ菌検査・除菌

(1) ピロリ菌検査を受診したことがあるか

- ◎全体では、受診経験者は 3 割にとどまっている。
- ◎年代別に見ると、男女とも概ね、年代が上がるほど受診率が上がっている。

(2) ピロリ菌除菌治療を受けたことがあるか

- ◎全体では、除菌治療を受けた人は 1 割強であった。
- ◎性・年代別では、ピロリ菌検査と同様、年代が上がるほど治療経験者が増えている。

(3) ピロリ菌検査を受診したいか

- ◎全体では「全額自己負担でも受診したい・受診している」は 1 割強だったが「費用の助成があれば受診したい」と合わせると、8 割近くの人が受診を希望している。
- ◎性・年代別では、男性は 40 歳代※、女性は 30~40 歳代の受診意向が最も高くなっている
(※男性の調査対象は 40 歳代以降であるため、30 歳代は不明)。

(4) ピロリ菌除菌治療を受けたいか

- ◎回答者全体では、9 割が治療意向を持っていた。
- ◎性・年代別に見ると、男女とも 70~74 歳で最も治療意向が低い結果となった。

(5) 家族にピロリ菌検査・除菌を勧めたいか

◎回答者全体では、9割が勧めたいと回答。

◎性・年代別では、いずれの性・年代でも約9割が勧めたいと考えている。

7. がんに関する情報の入手方法・ニーズ

(1) がんに関する情報を何から得ているか

◎全体では「マスメディア」が圧倒的に多く、約9割が回答している。

◎「家族・友人・知人」「雑誌・専門誌・単行本などの出版物」が3割を超えている。

◎性・年代別に見ると、男性は40歳代、女性では30～40歳代で「インターネットで都度情報を検索する」の回答率が比較的高くなっている。

◎年代が上がるほど「「広報さっぽろ」や市などが発行するパンフレット」の回答率が高くなる傾向にあり、特に70～74歳女性では約4割であった。

(2) がんに関して知りたい情報

◎全体では「がんの予防方法」「市で助成しているがん検診の受診方法」「がん検診の種類・費用・受診方法等」「がん検診無料クーポンの対象要件・使い方」「がんの治療にかかる費用」への要望が高かった。

◎性・年代別に見ると、女性の20～30歳代で「市で助成しているがん検診の受診方法」「がん検診の種類・費用・受診方法等」への要望が、1、2番めに多く挙げられている。

(3) 「がん検診受信促進キャンペーン」の認知度

◎全体では、キャンペーンの認知度は1割程度にとどまっている。

◎性・年代別では、男女とも年代が上がるほどキャンペーンやCMへの認知度が高くなっている。

8. がんに関する相談先

(1) がんや予防・治療方法について相談した先

◎全体では「医師・看護師など医療関係者」が最も多く「家族・友人・知人」が次いだ。

◎「医療機関などにある相談窓口」は3%未満にとどまっている。

◎いずれの性・年代でも「医師・看護師など医療関係者」が最も多く「家族・友人・知人」が次ぐということは変わらなかった。

(2) がんや予防・治療方法について誰に相談したいか

◎全体では、これまでに相談したことがある先と同様「医師・看護師など医療関係者」が最も多く挙げられた。

◎これまでに相談した先としてはわずかしか挙げられていなかった「医療機関などにある相談窓口」が2番めに多く挙げられている。

◎性・年代別に見ると、男女とも50歳代以上で「家族・友人・知人」よりも「医療機関にある相談窓口」への相談意向が強くなっている。

(3) 「がん相談支援センター」の認知度

◎全体では「知らなかった」が約8割であった。

◎性・年代別では、概ね男女とも年代が上がるほど認知度が上がっている。

9. がん入院治療後の療養

(1) 自身が、がんにかかった場合どこで療養したいか

◎全体では「大きな総合病院」が最も多く約5割で「自宅」が3割で次いだ。

◎性・年代別では、男性では年齢が上がるほど「大きな総合病院」の率が上がるのに対し、女性では逆に年齢が上がるほど「大きな総合病院」の率が下がり「近隣の病院・診療所」の率が上がる現象が見られる。

(2) 家族が、がんにかかった場合どこで療養させたいか

◎全体では、自身ががんにかかった場合と比較すると「大きな総合病院」の率が高くなり「自宅」の率が減っている。

◎性・年代別に見ると、女性で、自身が療養する場合と同様、年代が上がるほど「大きな総合病院」の率が下がり「近隣の病院・診療所」の率が上がっている。

(3) 自身が自宅療養する際、不安に思うこと

◎全体では「同居する家族に負担をかけてしまうこと」が最も多く、約8割が挙げた。「何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと」が5割超で次ぐ。

◎いずれの性・年代でも「同居する家族に負担をかけてしまうこと」が最も多く挙げられている。

◎30歳代以上の女性で「家事ができなくなること」を多く挙げていることが特徴的である。

◎世帯構成別に見ると、「一人暮らしの人では「付き添ってくれる人がいないこと」が7割を超えていることが特徴的である。

(4) 家族が自宅療養する際、不安に思うこと

◎全体では「何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと」が最も多く「家族を介護する手間・負担がかかること」が僅差で次ぐ結果となった。

◎性・年代別に見ると、男性の50歳代で「家族の介護で自分の仕事等に支障が出ること」が、僅差ではあるが、最も多く挙げられている。

(5) 「がんの緩和ケア」について知っていたこと

◎全体では、いずれの項目についても約5割以下の認知にとどまっている。

◎性・年代別では「日本は欧米先進諸国と比較し医療用麻薬の消費量が著しく少ない」以外の項目について、概ね年代が上がるほど認知度が高い結果となっている。

10. がんにかかった際の就労についての考え

(1) がん罹病経験の有無

(2) がんにかかっても働きたい・続けたかったか (* 罹病時働いていなかった者除く)

◎約7割が「働きたい／働きたかった」と回答した。

◎性・年代別に見ると「働きたい／働きたかった」との回答は、女性の70～74歳以外では「働きたくない／働きたくなかった」を上回っている。

◎罹病経験別に見ると、罹病していない人の「働きたい」との回答率は約7割であるが、実際に罹病した人の約9割が「働きたかった」と回答した。

(3) 就業先はがんにかかっても働けられる職場か

◎全体では「働けられる職場だと思う」人は4割超にとどまっている。

- ◎性・年代別に見ると、男性ではいずれの年代でも「働き続けられる職場だと思う」率が「働き続けるのは難しいと思う」率より上回っているのに対し、女性の30歳代、50歳代、60歳代で「働き続けるのは難しいと思う」率が上回っている。
- ◎性・職業別に見ると、女性については、会社員（正規雇用）以外で「働き続けるのは難しいと思う」回答率が「働き続けられる職場だと思う」の回答率を上回っている。
- ◎会社員（正規雇用）についても、男性と比較して女性の方が有意に「働き続けるのは難しい」と考えている。
- ◎男女とも、パート・アルバイトでは「働き続けるのは難しいと思う」回答率が「働き続けられる職場だと思う」の回答率を上回った。

(4) 働き続けるのが難しいと思う理由

- ◎全体を見ると「治療と仕事の両立が体力的に難しいから」「治療・通院のために休むことが難しいから」「がん等の治療の際に利用できるような勤務制度・仕組みがないから」の順で多く挙げられた。
- ◎性・年代別では、男性では「がん等の治療の際に利用できるような勤務制度・仕組みがないから」と制度面の理由、女性では「治療と仕事の両立が体力的に難しいから」と体力面の理由が最も多く挙げられた。